

鯖江市議会・市民創世会

大門よしかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)-52-7488 携帯 090-6810-2462

3月議会一般質問より

最近話題のふるさと納税について鯖江市の現状と取り組みについて質問しました



総務省HPより

少子高齢化が一段と進む社会情勢のなか、鯖江市は昨年度に増して一般財源不足による厳しい予算編成が予想されるため、経常経費については、対前年度比90%以内の予算要求とする。という基本方針が示されました。

今後自治体の財政運営は益々厳しい状況になると予想されているなか、新しい歳入構造の構築を図っていく必要があります。

鯖江市は国・県の補助、各種団体の助成金などをはじめとして「財源確保に向けたあらゆる方策を最大限に活用すること」との方針を示しました。

そこで現在、最も効果が期待でき、しかも話題性がある「ふるさと納税」とはどのようなものなのでしょうか。

ふるさと納税の意義



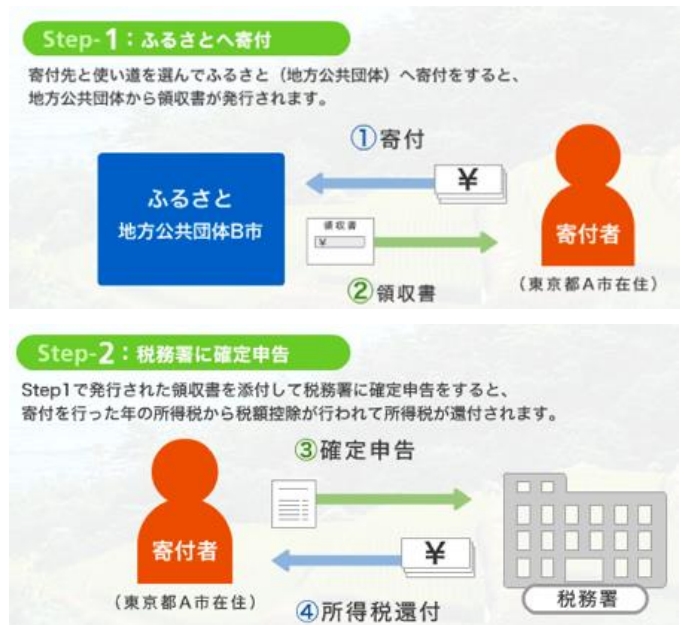
総務省HPより

- 寄付を通して、自分が生まれ育ち、教育を受けた地

域や両親の出身地など、過去にお世話になった地域に対して恩返しができること。

- ボランティアや仕事の関係などで現在かかわりのある地域、また、将来、自分や子供たちの故郷にしたいと思うような地域を応援できるということ。
- 国民に選んでいただけるような特色のある取り組みをPRして、選ばれるにふさわしい地域のあり方を考えるきっかけとすること。

その仕組み



総務省HPより

鯖江市におけるH28年度の目標額と見込み

- 当初予算による目標額は8,000万円。実績見込み(3月10日時点)は940件。総額約9,350万円。(4月18日時点実績950件。総額約9,470万円)
- 県内では小浜市、美浜町について3番目に多い。
- 1件当たりの寄付単価が約10万円と比較的高く、効率的に寄付を集められている。

使い道の希望と本市の対応

- 鯖江市では①めがねのまち②市民主役のまち③福祉④教育⑤使途を限定せず、等を含む8分野への

使途希望が選べる。

- 例えば「めがねのまち」づくりには約 2,000 万円。教育分野には約 1,000 万円を頂いており、当該年度に実施されている市の施策に要する経費の一般財源として充当されている。
- 新年度はクラウドファンディング型ふるさと納税、いわゆるF×G(エフバイジー)を活用し、寄付した人の思いが直接反映できるような取り組みをしたい。

返礼品に対する取組は

- 鯖江商工会議所、鯖江市物産協会、福井県眼鏡協会、鯖江市繊維協会、越前漆器協同組合、JAたんなんなどと相談をしながら 65 品目 81 種類を用意している。さばえ菜花米、地酒、薄型老眼鏡、などが人気商品となっている。

次年度は見直す可能性があります)

- 返礼品を贈る寄付の対象額を従来の 3 万円以上から 1 万円以上へと引き下げる。

担当を戦略室から財政課に移管する狙いは

- 市税収入が伸び悩み、地方交付税も減少するという一方で、社会保障関係費などの扶助費が増加するなど、厳しい財政状況が続いている。やはり自主財源の確保が急務な課題である。
- 持続できる経営体を目指していくためには「入るを図りて出ざるを制す」という地方財政の原則の下で、ふるさと納税に関する業務を財政課に移管して「F AAVOさばえ」や「F×G(エフバイジー)」と一体的に管理運営し、新しい企画を立ちあげ、本市の魅力を効果的に情報発信する。



鯖江市HPより

- 本市の強みであるものづくりの分野の返礼品をより充実することで地域経済の活性化に寄与するようなPRを積極的に進めていきたい。
- 総務省から返礼品に対しては寄付金控除の趣旨を踏まえた良識ある対応が要請されている。具体的には換金性の高い商品や割合の高い返礼品を自粛するよう通達が出されている。
- 新しい返礼品を市内の事業者から募集するなど、魅力ある商品の充実を図っていく。

新年度での制度改正について

- 全国の自治体がお礼品の調達に要した経費は、お礼品の送付に要する費用も含めると寄付総額の約 4割となっている。県内でも多くの市町が約 4割から 5 割程度の返礼品を送っている。そのような情勢の中、鯖江市では市内からの寄付は返礼品の割合を約 2 割。市外から寄付していただいた方に対しては約 4割程度に引き上げる。(但し、その後の総務省通達により返礼率を 3 割以内に抑えるよう要請されています。)

ふるさと納税の現状

- 導入された H20 年度は全国で寄付件数 5 万 4 千件、総額 81 億 4 千万円。
- H27 年度は制度改正が行われ、税額が控除される上限額が 2 倍に拡大した。また、確定申告を行わなくても寄付金控除が受けられるワンストップ特例が導入されたといった背景もあり寄付件数 726 万件、総額 1,653 億円と大幅に増加した。
- 寄付が増加した背景には制度改正に加え、全国の自治体の特産品の種類を充実させた。また、ふるさと納税のポータルサイトが充実してきたなどの背景がある。

市外からと市内からの寄付の状況は

- 鯖江市民からの寄付は件数で約 1 割。金額では約 2 割となっている。
- 市外からは提携している大手ポータルサイト経由が大勢を占めており件数で 84%、金額で 76%である。

- ポータルサイト運営者の方、運営会社などと連携を強めるなど、少しでも寄付に繋がるような工夫を続けていく。

鯖江市民が鯖江市にふるさと納税をした場合のメリットについて

「広報さばえ」においても、市民に鯖江市への「ふるさと納税」を呼びかけています。それでは鯖江市の税収が減るように感じますが仕組みはどうなっているのでしょうか。

例えば、鯖江市民がふるさと鯖江市に30,000円をふるさと納税した場合について考えてみます。

ふるさと納税をした市民は

$$\text{¥ 30,000} - \text{¥ 2,000 (自己負担分)} = \text{¥ 28,000 (税控除額)}$$

つまり自己負担分を除く28,000円が還付または次年度の住民税から控除されます。

(但し、控除額には所得に応じて上限がありますので注意が必要です。また、確定申告される場合は所得税の控除があります)

鯖江市はふるさと納税30,000円に対し2割に当たる6,000円分の返礼品を贈ります。つまり、寄付した人は実質2,000円の負担で6,000円分の返礼品を受け取ることになります。また、寄付額から控除される28,000円の内訳は、本来、鯖江市に納める市民税相当分16,800円と県民税相当分11,200円となっています。

その結果、鯖江に残る額は

$$\text{¥ 30,000 (ふるさと納税額)} - \text{¥ 6,000 (返礼品額)} - \text{¥ 16,800 (市民税額)} = \text{¥ 7,200}$$

となります。

(ただし、総務省通達により地元自治体への寄付は基本的に返礼品を贈らないよう要請が来ております。次年度には見直す可能性があります)



総務省HPより

鯖江市民が鯖江市にふるさと納税しやすい環境づくりについて

ふるさと納税をしたい場合、現在は市との間で書類の往復があり数日を要します。また、ポータルサイトを利用できない方もたくさんおられます。

そこで、市役所や地区公民館、観光施設などでワンスト

ップ窓口対応ができないかお尋ねしました。現在は

- ①お尋ねを頂いた場合、窓口まで担当者が出向いて説明している。
- ②各種の出前講座やJR鯖江駅でのPRに努めている。

新年度においては世界にはばたく地域ブランド「めがねのまちさばえ」の情報発信を積極的に進めて行くために「めがねのまちさばえ戦略室」を中心に全庁体制でシティープロモーションに取り組んで行く。それに併せてふるさと納税のPRもやっていく。との見解です。

クラウドファンディング型ふるさと納税 F×G (エフバイジー) について

その仕組みと特長についてお伺いしました



F×G(エフバイジー)第1弾「めがねストリート整備事業」

- ①寄付控除が適用される。お礼品の対象となる。など一般的なふるさと納税と仕組みは同様。
- ②インターネット上で不特定多数の方から広く資金を募る資金調達手段。仮に目標額に達しなくとも事業は実施する。
- ③クラウドファンディングという手法を活用して、市がプロジェクトの実行者として実施する事業に対して、専用のポータルサイトを開設し、そこで寄付を集める手法。

寄付する側はポータルサイトに掲載されている事業から、自分が応援したい事業を選択して寄付することができます。従って、用途が明確になり、寄付者の意思が直接的に反映される。という点が「ふるさと納税」との違いです。

新年度の事業と目標は、めがねのまち鯖江を広くPRする事業として「めがねストリート第2弾」「めがねのまち鯖江フェスティバル」「大人ファーストさばえめがね」など7事業約8,000万円を対象に実施する予定です。

クラウドファンディングFAAVO (ファーボ) とは

よく似た名前でしかも何やら難しいカタカナが並びますがどの様な違いがあるのでしょうか。その特長は

- ①インターネット上で不特定多数の方から資金を募る調達手段である。
- ②市民や団体が実現したいと考えている事業に対して資金を調達することを目的にしている。行政の役割としては事業の成功に向けて側面からサポートする。
- ③ふるさと納税と違い寄付控除の対象とはならない。
- ④目標金額に到達しない場合、寄付の決済自体が実施されず、資金調達ができなくなる。

企業版ふるさと納税について

「ふるさと納税」は個人の方が対象。「企業版ふるさと納税」は志のある企業が地方自治体の進める地方創生プロジェクトに対して寄付をするという制度。企業側は寄付行為に対して税額控除の優遇措置(従来の約2倍)が受けられます。

日本は人口減少が避けられない中、社会全体の活力を維持するため、地方が取り組んでいる地方創生事業に民間資金の新しい流れを巻き起こす。ということを期待してのものです。

対象となる事業は、あらかじめ国に地域再生計画を提出し、国から認定を受けた事業でなくてはなりません。

鯖江市は「空き家利活用マッチングプロジェクト」が認定を受けたことを踏まえ、空き家調査の継続と「空き家情報バンク」の充実、簡単な修繕にかかる費用の一部助成などを進めていきたい。との事です。

つつじバスが便利に

4月よりつつじバスの再編が実施され、利便性がアップしました

アルプラザ鯖江店の敷地内乗り入れが実現

かねてより要望をお聞きし、申し入れを行ってきたアルプラザ鯖江店敷地内へのつつじバスの乗り入れが、担当部局のご尽力により実現しました。



従来、かなり離れた道路際に停留所があり、待合所も無かったことから、雨の日や寒い冬、暑い夏など大変なご不便をお掛けしていました。現在は正面玄関東側に停留所が設けられ、高齢者や障がいをお持ちの方などのお買い物が大変便利になりました。

市役所バス停が近くなりました

これもかねてより要望があり、申し入れを行ってきたものです。



従来の停留所は市役所東通りの両側にありました。とくに東側停留所は市役所からかなり遠いところにあり

- ①バス停を降りた後、一旦反対方向の信号のある交差点まで行き、横断歩道を渡ってから市役所に向かう。
- ②北に向かい階段を降りて地下横断歩道を通り、再び長い階段を登る。

市役所に行くにはいずれの道順でも大人の足で約7分、②の階段を使うと上下約100段あり、高齢者や障がいをお持ちの方には大きな労苦をお掛けしていました。

今回、上下便とも市役所南隣に移設したことにより大変便利になりました。

スティックリング初心者教室

4月よりスティックリング初心者教室を始めました。

一度始めればその面白



ささと奥の深さに魅了されます。さあ、新しい事に挑戦し、体と脳を元気にし、お友達も増やしましょう!

- ◎毎週水曜日 13:30~
- ◎新横江公民館大ホールにて
- ◎参加費 無料
- ◎持参品 内履き、飲み物

あとがき 3月から4月は年度替わりにあたり、各種団体の総会、幼小中校の卒業、入学など何かと忙しい時期でした。今号の発行が少し遅れてしまいました。これから暑さも本格化します。どうぞご自愛ください。